



キッコーマン
からめる具麺ソース 豆乳入り
冷やし汁風そうめんの素 (90g) 220円

麺と野菜にからめるだけで、手早く簡単に作れる豆乳入り冷やし汁風そうめんの素です。味噌とすりごまをベースに、豆乳、かつおだしを合わせました。隠し味の梅が効いているので、さっぱりと食べられます。



キッコーマン
わが家は焼肉屋さん
しょうゆ糀のつけこみだれ (210g) 300円

「わが家は焼肉屋さん」シリーズの「つけこみ」タイプのたれです。「しょうゆ糀(こうじ)」に香味野菜、ごま油、香辛料、糖類をバランスよく合わせて、うまみとコクのある絶妙な味わいに仕上げました。しょうゆ糀のうまみとコクがお肉をジューシーに仕上げます。しっかりした味わいなので、お弁当にもピッタリです。



キッコーマン
うちのごはん
じゃが豚の甘辛てり煮 (87g) 200円

じゃがいも2〜3個と豚バラ肉150gがあれば、フライパン1つで簡単に「じゃが豚の甘辛てり煮」ができてあがりです。3種のしょうゆ(丸大豆、たまり、再仕込み)を使用し、まるやかでコク深い甘辛しょうゆ味に仕上げました。角煮風の濃厚なたれが、ホクホクのじゃがいもと豚バラによくからみ、白いごはんによく合う味です。しょうが、たまねぎ、長ねぎの具材入りです。



デルモンテ
朝トマト (900ml) 330円

「朝にトマトの新提案！」はちみつとレモンをブレンドし、青臭さを抑えた甘くてすっきりした味わいの新トマト飲料です。トマトジュースが苦手な方でも飲みやすい味わいに上げています。コップ1杯(200ml)に2.5個分のトマトを使用しています。



豆乳飲料 マンゴー (200ml) 90円

人気の果物マンゴーをブレンドした豆乳飲料です。マンゴーの芳醇な香りと甘さが口いっぱいにひろがるおいしい健康飲料です。マンゴー特有の後味を抑え、マンゴーが苦手な方でも楽しみいただけます。乳や動物性原料は使用していません。食物繊維を強化し、1本(200ml)あたり3.8g含んでいます。



マンズワイン
ラ・ラ・ヴァン
やわらか微発泡 (赤、白) (300ml) オープン価格

チリ産テーブルワインを使用して、持ち運びしやすいワイン用のボトル缶に詰めた微発泡のワインです。やさしくはじける華やかな味わいに仕上げました。アウトドアを含め、いろいろな場所でお楽しみいただけます。

価格は希望小売価格であり、消費税は含まれておりません。



キッコーマングループ IR Report

第96期 決算のご報告 平成24年4月1日～平成25年3月31日

CONTENTS

- 1-2 株主の皆様へ-財務ハイライト
- 3-6 業績の概要 国内/海外

7-8 **Focus** 国内事業
成長カテゴリーの生産体制強化
「うちのごはん」新工場/豆乳 新工場

9-10 **Focus** 海外事業
KIKKOMAN FOODS, INC. (KFI) 40周年
ウィスコンシン工場/カリフォルニア工場

- 11-12 連結決算の概要
- 13 会社の概要/株式の状況
- 14 株主メモ/株主優待制度のご案内/特別口座から証券会社の口座への振替について

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに第96期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の業績のご報告を申し上げます。



代表取締役社長 CEO 堀切 功章

経営理念

- 私たちキッコーマングループは、
1. 「消費者本位」を基本理念とする
 2. 食文化の国際交流をすすめる
 3. 地球社会にとって存在意義のある企業をめざす

当期の業績のご報告

キッコーマングループの当期の連結業績は、売上高は3,002億円(前期比106.0%)、営業利益は198億1千7百万円(前期比111.6%)、経常利益は187億9百万円(前期比122.7%)、当期純利益は110億1千2百万円(前期比122.6%)となりました。

売上は、国内については、しょうゆが前期を下回ったものの、食品、酒類ともに前期を上回り、飲料においては豆乳飲料、デルモンテ飲料ともに好調に推移したことによって、前期を上回りました。海外については、しょうゆは北米・欧州を中心に順調に売上を伸ばし、食料品卸売事業も好調に推移し、前期の売上を上回りました。

今後の見通しと課題について

海外については、しょうゆ事業を中心に今後も当社グループの牽引役として成長を果たしてまいります。

北米は、キッコーマンブランドの浸透度が高く、人口も増加している重要市場であり、既存ユーザーの使用機会を増やすとともにヒスパニック等の市場を開拓することによって、安定的な成長を果たしてまいります。

欧州では、しょうゆの拡売に注力し、既存市場の深耕はもちろん、新規市場を開拓することで、2桁成長を維持してまいります。

アジアでは、国や地域に合った販売施策を展開し、アジアにおけるキッコーマン独自の高収益モデルを確立させてまいります。

将来の市場開拓については、ブラジル等において、現地の食文化との融合を図り、市場への浸透を着実に進めてまいります。

東洋食品卸事業では、日本食ブームのなか、当社グループの強みであるグローバルネットワークと質の高い商品・サービスをさらに磨き、差別化された確固たる地位を確立してまいります。

国内については、しょうゆに、つゆ類、たれ類を加えたしょうゆ関連調味料全体の成長をめざします。しょうゆでは、「いつでも新鮮」シリーズの売上拡大に努め、主力商品に育ててまいります。また、「うちのごはん」については、製造拠点である埼玉キッコーマン(株)が本格稼働し、この成長カテゴリーにおいての地位を強化してまいります。

デルモンテ飲料については、売上の拡大と同時に、高い利益を確保する事業に育ててまいります。また、豆乳においては、キッコーマンソイフーズ(株)の茨城工場が稼働し、生産体制の強化と需要拡大のマーケティング活動を通じて、市場においてさらに強固なポジションを確立してまいります。

酒類では、家庭用みりんのシェア拡大とともに付加価値のあるワインの提供に注力してまいります。

バイオ化成品では、高い技術力を活かした差別化商品を武器に収益力を高めてまいります。

中期経営計画

当社グループでは、2020年(平成32年)を目標とするグループの将来ビジョン「グローバルビジョン2020」を策定しており、その実現に向けて、具体的に中期経営計画や単年度計画に落とし込みを行っております。

平成24年度を初年度とし、平成26年度を最終年度とする中期経営計画の経営課題は、「海外事業の成長の継続」と「国内事業の収益力の向上」であります。

《平成26年度の連結業績目標》

1. 売上高 3,200億円(平均成長率 4.6%)
2. 営業利益 230億円(平均成長率 7.2%)
3. ROA 7.0%

※詳細は、次のURLからご覧ください。

<http://www.kikkoman.co.jp/ir/lib/managementplan.html>

株主の皆様におかれましては、なにとぞ一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

グローバルビジョン2020

■目指す姿■

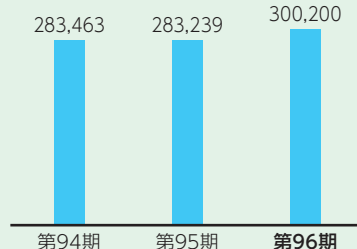
1. キッコーマンしょうゆをグローバルスタンダードの調味料にする
2. 食を通じた健康的な生活の実現を支援する企業となる
3. 地球社会にとって存在意義のある企業となる

■基本戦略■

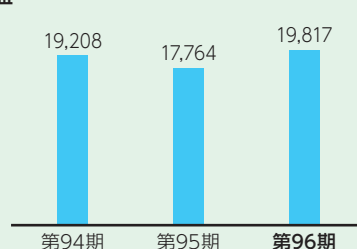
- | | |
|--------------|---------------------------|
| 1. しょうゆ世界戦略 | 高収益のビジネスモデルを世界へ広げる |
| 2. 東洋食品卸世界戦略 | 日本食の拡大を追い風に、世界にネットワークを広げる |
| 3. デルモンテ事業戦略 | 日本及びアジア・オセアニア地域での展開を強化する |
| 4. 健康関連事業戦略 | 企業買収などにより、バイオ、健康食品を拡大する |
| 5. 豆乳事業戦略 | グループの新たな柱として育成する |

財務ハイライト(連結) | 売上高

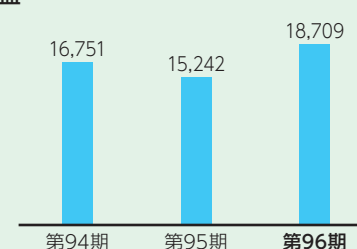
(単位: 百万円)



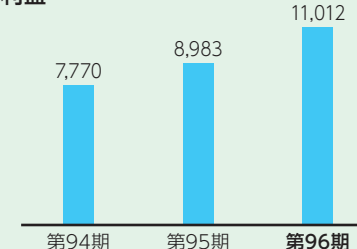
営業利益



経常利益

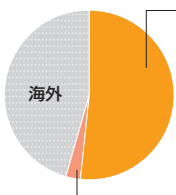


当期純利益



国内

事業別売上高構成比



食料品製造・販売事業

51.2%

売上高 前期比 104.7%

1,548億1千4百万円

営業利益 前期比 153.6%

55億4千6百万円

その他事業

2.7%

売上高 前期比 98.3%

201億4千7百万円

営業利益 前期比 88.2%

14億5千9百万円

食料品製造・販売事業

しょうゆ部門、つゆ・たれ・デルモンテ調味料等の食品部門、豆乳飲料・デルモンテ飲料等の飲料部門、みりん・ワイン等の酒類部門からなり、国内において当該商品の製造・販売を手がけております。

しょうゆ部門

家庭用分野では、「いつでも新鮮」シリーズで生活者のニーズに合った「やわらか密封ボトル」450mlの新容器を投入し、新鮮な生しょうゆのおいしさ、鮮度維持とあわせて使いやすさという付加価値の提案を行い、新たなカテゴリーを着実に拡大させましたが、既存商品の減少傾向もあり、前期を下回りました。加工用分野では、得意先の深耕開拓により前期を上回りました。業務用分野では、市場環境が厳しく、前期を下回りました。この結果、部門全体として前期を下回りました。



食品部門

つゆ類は、家庭用分野では、前期より導入の「からめる具麺ソース」が好調に推移し、主力商品の「本つゆ」も前期を上回りましたが、ストレートつゆや「めんみ」の既存商品は前期を下回りました。加工・業務用分野は売上を伸ばし、つゆ類全体としては前期を上回りました。たれ類は、加工・業務用分野の商品や、主力商品である「わが家は焼肉屋さん」、「ステーキしょうゆ」等が堅調に売上を伸ばし、たれ類全体として前期の売上を上回りました。「うちのごはん」は、積極的な新商品開発や店頭販促活動を行い、前期の売上を上回りました。デルモンテ調味料は、加工・業務用分野で東日本大震災による供給制約からの回復に加え、紙パック入り素材も好調で、全体として前期を上回りました。この結果、部門全体として前期の売上を上回りました。



飲料部門

豆乳飲料は、健康志向の高まりを背景に飲用だけでなく料理用として訴求するなど、テレビや雑誌等の各メディアと連携を図りながら、市場拡大につながる販促活動を積極的に実施し、前期の売上を大きく上回りました。デルモンテ飲料は、健康志向による市場拡大が継続しており、トマトジュースが売上を大きく伸ばしました。また、ギフト商品を中心としたフルーツジュースや「ベジスタート」、「温野菜」等も貢献したことにより、デルモンテ飲料全体として前期の売上を大きく上回りました。この結果、部門全体として、前期の売上を大きく上回りました。



酒類部門

本みりんは、家庭用分野でギフト商品が苦戦したものの、加工用分野で新規顧客を開拓したことにより、前期を上回りました。国産ワインは新しい価値の提案となる缶入りワインの「ラ・ラ・ヴァン」や業務用分野で売上を伸ばしました。また、今年度も「ソラリス」シリーズが「国産ワインコンクール2012」で金賞を受賞するなど、引き続き高い評価を得ており、国産ワイン全体で前期を上回りました。輸入ワインも市場開拓に取り組んだ結果、前期を上回りました。この結果、部門全体として前期の売上を上回りました。



その他事業

臨床診断薬・衛生検査薬・加工用酵素、ヒアルロン酸等の化成品等の製造・販売、不動産賃貸及び運送事業、グループ会社内への間接業務の提供等を行っております。

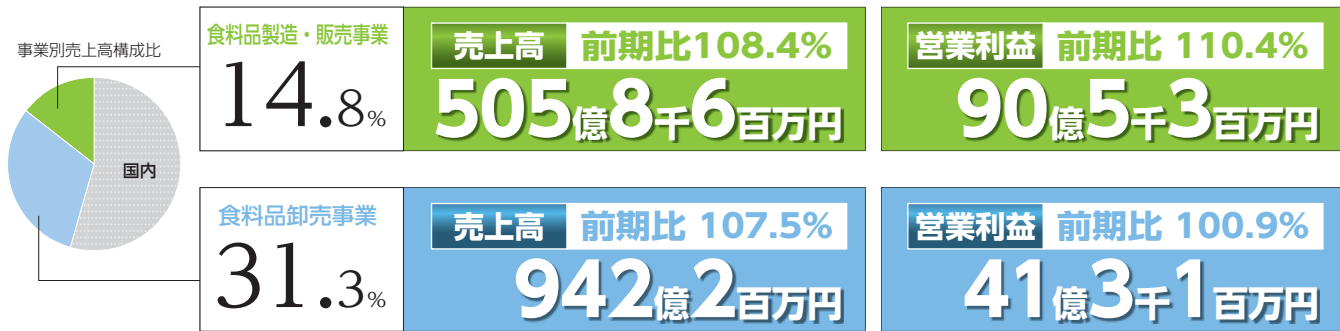
臨床診断薬、衛生検査薬は好調に推移したものの、ヒアルロン酸が前期の売上を下回りました。



国内の主なグループ企業

- キッコーマン食品(株)
- キッコーマン飲料(株)
- キッコーマンビジネスサービス(株)
- キッコーマンパイオケミファ(株)
- 日本デルモンテ(株)
- マンズワイン(株)
- JFCジャパン(株)
- 平成食品工業(株)
- 江戸川食品(株)
- 北海道キッコーマン(株)
- 流山キッコーマン(株)
- 埼玉キッコーマン(株)
- テラヴェール(株)
- 宝醬油(株)
- キッコーマンソイフーズ(株)
- 総武物流(株)
- (株)総武サービスセンター

海外



食料品製造・販売事業

しょうゆ部門、デルモンテ部門、健康食品等のその他食料品部門からなり、海外向けの輸出版売及び海外において当該商品の製造・販売を手がけております。

しょうゆ部門

北米市場においては、家庭用分野では、主力商品であるしょうゆに加え、しょうゆをベースとした調味料等の拡充に引き続き力を入れ、当社のブランド力を活かした事業展開を行ってまいりました。また、加工・業務用分野では顧客のニーズに合わせたきめ細かい対応を行ってまいりました。この結果、家庭用、加工・業務用分野ともに、前期の売上を上回りました。

欧州市場においては、最需要国であるロシアをはじめ、重点市場である、フランス、オランダ、イギリスでも順調に売上を伸ばし、前期の売上を上回りました。

アジア・オセアニア市場は、フィリピンで小型容器を導入するなど、市場拡大に努めましたが、前期に東日本大震災の影響によるシンガポール産の特需があったため、全体として前期並みの実績となりました。

この結果、部門全体として好調に推移いたしました。



デルモンテ部門

当部門は、アジア・オセアニア地域で、フルーツ缶詰・コーン製品、トマトケチャップ等を製造・販売しております。

韓国を除く主要市場では前期を上回りましたが、韓国市場向けの売上が落ち込んだため、部門全体として前期の売上を下回りました。



その他食料品部門

当部門は、主に北米地域において、健康食品を製造・販売しております。医師ルート向けの売上が引き続き好調に推移したことから、前期の売上を上回りました。



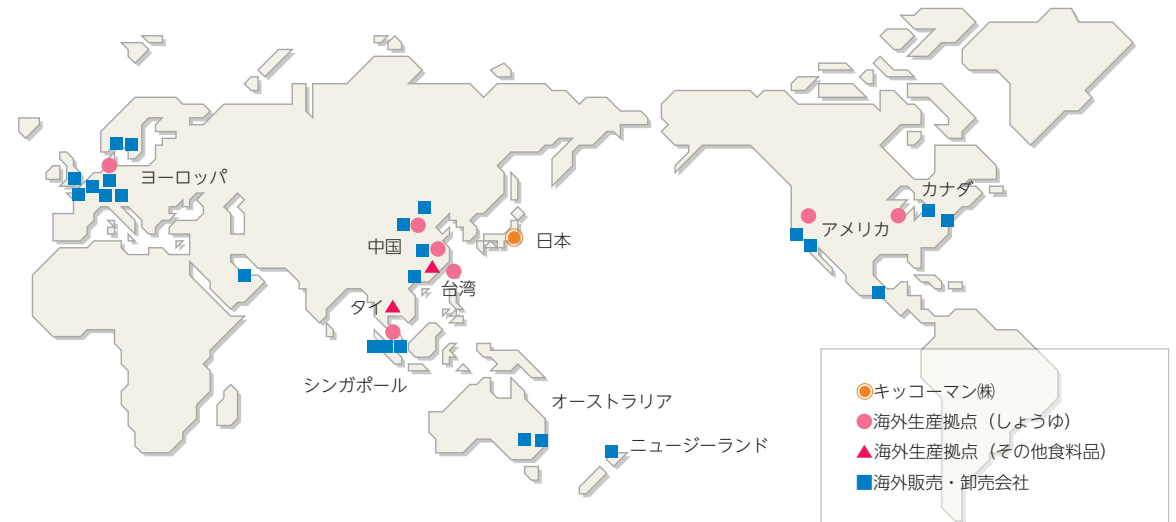
食料品卸売事業

国内外において、東洋食品等を仕入れ、販売しております。

北米では、アジア系マーケットにとどまらず、ローカルマーケットへのさらなる浸透を進め、順調に売上を伸ばしました。また、欧州、オセアニアでは引き続き日本食ブームが拡大しており、各地域で順調に推移いたしました。この結果、前期の売上を上回りました。



世界の拠点ネットワーク



海外の主なグループ企業

- KIKKOMAN FOODS, INC.
- KIKKOMAN SALES USA, INC.
- JFC INTERNATIONAL INC.
- JFC INTERNATIONAL (CANADA) INC.
- KI NUTRICARE, INC.
- COUNTRY LIFE, LLC
- KIKKOMAN FOODS EUROPE B. V.
- KIKKOMAN TRADING EUROPE GmbH
- JFC INTERNATIONAL (EUROPE) GmbH
- KIKKOMAN (S) PTE LTD
- KIKKOMAN TRADING ASIA PTE LTD
- DEL MONTE ASIA PTE LTD
- KIKKOMAN AUSTRALIA PTY. LIMITED
- JFC HONG KONG LIMITED
- JAPAN FOOD CORP (AUST) PTY LTD

成長カテゴリーの生産体制強化

「うちのごはん」新工場

埼玉キッコーマン(株)

埼玉キッコーマン(株)が、2012年12月より「うちのごはん」の生産を開始しました。

当社グループの中期経営計画では、簡便そうざいの素カテゴリーの成長と収益力強化をめざしており、なかでも「うちのごはん」は成長の柱です。埼玉キッコーマン(株)は「うちのごはん」の生産拠点として設立され、現在は4品を製造しています。今後は、順次製造品目を増やしていく予定です。



2012年10月に入社式を行いました。



■ 工場の概要

| | |
|------|--------------------|
| 所在地 | 埼玉県久喜市北中曽根字川妻752-1 |
| 敷地面積 | 約66,000㎡ |
| 建築面積 | 約2,800㎡ |
| 延床面積 | 約3,200㎡ |
| 生産品目 | 「うちのごはん」シリーズ等 |
| 生産能力 | 年間約3,000万個 |
| 従業員数 | 約60名 |

好評「うちのごはん」シリーズ



献立キマル！
うちのごはん♪



20以上のアイテムをそろえる「うちのごはん」は、ライフスタイルが変化し、忙しい日々をおくるなか、“メニューを悩まず決めたい”“とにかくぱぱっと1品つくりたい”というニーズにお応えし、これからも「毎日の家庭料理」のお手伝いをしていきます。

豆乳 新工場

キッコーマンソイフーズ(株) 茨城工場

キッコーマンソイフーズ(株)の新工場、茨城工場が2013年5月より稼働しています。キッコーマングループの3番目の豆乳工場となります。

豆乳市場は、健康志向の高まりや食生活習慣改善を意識する消費者の支持を受け、順調に拡大しています。また最近では料理への使用も増えており、今後さらなる成長が見込まれています。

■ 工場の概要

| | |
|------|--------------------|
| 所在地 | 茨城県猿島郡五霞町川妻1122 |
| 敷地面積 | 約38,000㎡ |
| 建築面積 | 約17,000㎡ |
| 延床面積 | 約19,000㎡ |
| 生産品目 | 豆乳、調製豆乳、豆乳飲料シリーズ等 |
| 生産能力 | 年間約2,200万個(1L/個換算) |
| 従業員数 | 約40名 |



KIKKOMAN FOODS, INC. (KFI) 40周年



カリフォルニア工場
ウィスコンシン工場

2013年、北米のしょうゆ生産拠点であるKIKKOMAN FOODS, INC. (KFI)が40周年を迎えました。
1957年にキッコマンがアメリカでの本格的なマーケティング活動を開始して以来、しょうゆはアメリカの食文化に広く受け入れられ、販売量が拡大していきました。そして1973年、アメリカ中西部のウィスコンシン州に設立したKFI ウィスコンシン工場で、現地生産を開始しました。地域社会との共存共栄をめざしたKFI ウィスコンシン工場は、その後の海外生産拠点のモデルとなっています。
さらに、1998年にはKFIの第2工場であるカリフォルニア工場を設立し、現在はKFIの2工場が、北米でのしょうゆの生産を支えています。



1973年 KFI 工場落成祝賀式典

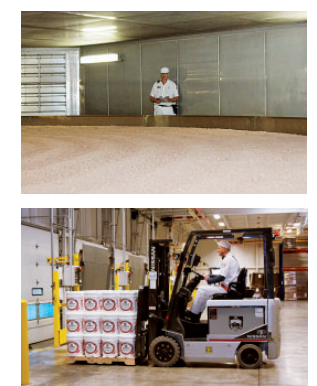
Voice

「KFIの製品づくりのこだわり」

キッコマンブランドの約束、それは世界中どこでも同じです。お客様の「おいしい記憶」にKFIでつくった製品が少しでもお役に立てるように、「おいしい」そして「安心して使っていただける」製品づくりをいつも心がけています。KFIで働くすべての人が自信をもって私たちの製品を送り出すことができるように、品質・食品安全・環境に対する思いを皆で共有し、実現するための仕組みを愚直に守っていくよう努力してまいります。



VICE PRESIDENT,
MANUFACTURING &
ASSISTANT TREASURER
辻 亮平



工場外観



出荷を待つ商品

ウィスコンシン工場

生産能力: 115,000KL

ウィスコンシン工場で製造している商品は、設立当初、しょうゆとテリヤキソースのみでしたが、現在では減塩しょうゆや様々なしょうゆ関連調味料、また家庭用だけでなく業務・加工用商品も製造しています。



しょうゆ 150ml しょうゆ 250ml 減塩しょうゆ 250ml

- | | | |
|---|---|---|
| ② | ③ | ④ |
| ⑤ | ⑥ | ⑦ |

- ① 工場外観
- ② 分析
- ③ 原料処理
- ④ 麹
- ⑤ 压榨
- ⑥ 詰
- ⑦ 出荷

カリフォルニア工場

生産能力: 23,500KL

カリフォルニア工場の主力商品は5ガロン容器をはじめとする業務・加工用商品です。しょうゆは日本食だけでなく様々な食品に使用されています。



しょうゆ
5ガロン(約18.9L)

連結貸借対照表 (概要)

| 前期末 (平成24年3月31日) | 当期末 (平成25年3月31日) |
|------------------------|--------------------------------|
| 資産合計 331,371 | 資産合計 337,639 POINT 1 |
| 現金及び預金 27,941 | 現金及び預金 30,598 |
| 流動資産 133,804 | 流動資産 126,597 |
| 有形固定資産 99,170 | 有形固定資産 103,693 |
| 無形固定資産 26,879 | 無形固定資産 25,468 |
| 投資 その他の資産 71,517 | 投資 その他の資産 81,879 |
| 固定資産 197,567 | 固定資産 211,041 |

POINT 1

資産の部

現金及び預金や受取手形及び売掛金等が増加しておりますが、有価証券が減少したこと等により、流動資産は減少しております。投資有価証券が増加したこと等により、固定資産は増加しております。

| 前期末 (平成24年3月31日) | 当期末 (平成25年3月31日) |
|----------------------------|-------------------------------|
| 負債・純資産合計 331,371 | 負債・純資産合計 337,639 |
| 流動負債 61,114 | 流動負債 46,353 |
| 固定負債 102,903 | 固定負債 103,429 |
| 負債 164,018 | 負債 149,783 POINT 2 |
| 株主資本 189,682 | 株主資本 192,651 |
| その他の包括 利益累計額 △23,920 | その他の包括 利益累計額 △6,085 |
| 少数株主持分 1,410 | 少数株主持分 1,174 |
| 純資産 167,352 | 純資産 187,856 POINT 3 |

POINT 2

負債の部

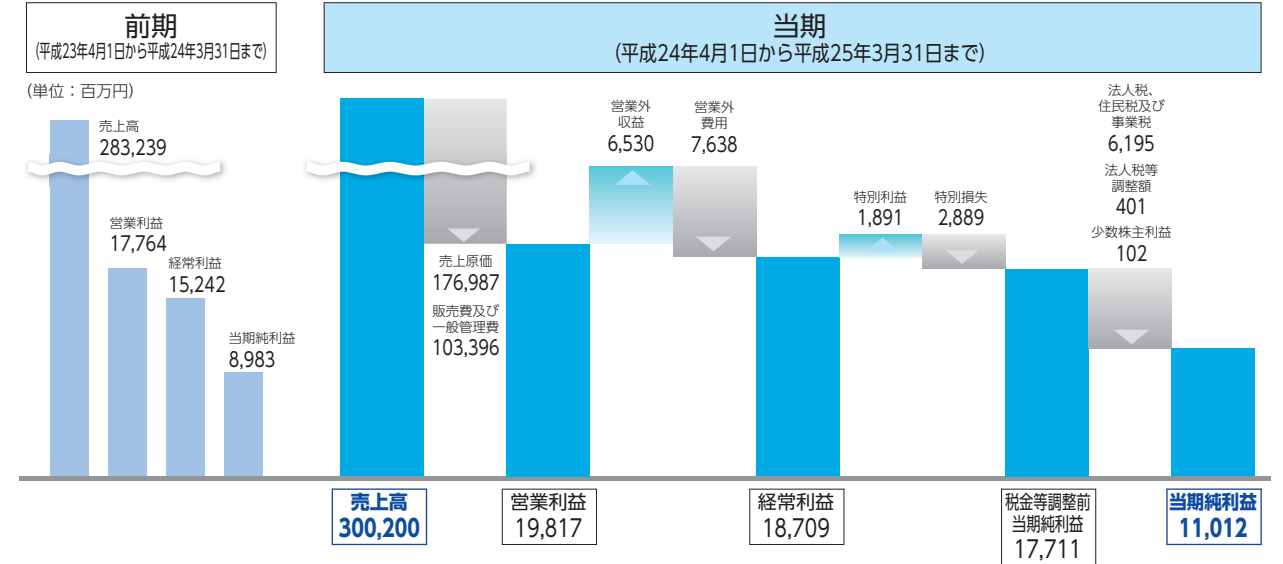
社債を満期償還したこと等により、負債が減少しております。

POINT 3

純資産の部

主な増加の要因として、利益剰余金の増加や、円安による為替換算調整勘定の増加、株式等の時価上昇によるその他有価証券評価差額金の増加がありました。一方、主な減少の要因として、自己株式の取得等がありました。この結果、純資産合計では増加しております。

連結損益計算書 (概要)

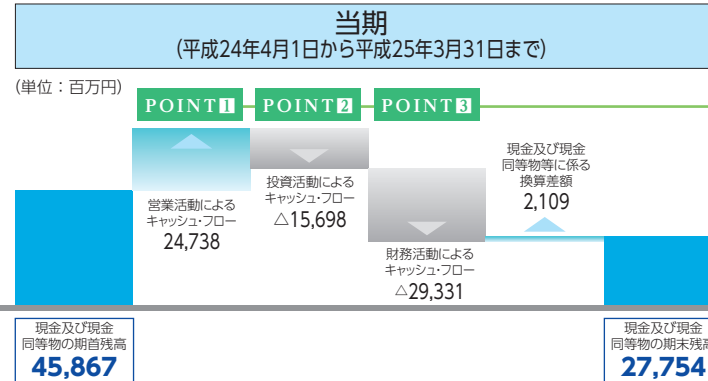


POINT

連結損益計算書

国内は豆乳飲料やデルモンテ飲料が好調に推移し、海外についてはしょうゆ、食料品卸売事業が順調に売上を伸ばしております。全体として売上高は増収となり、営業利益、経常利益、当期純利益は増益となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (概要)



POINT 1

営業活動によるキャッシュ・フロー
税金等調整前当期純利益、減価償却費等により純収入となっております。

POINT 2

投資活動によるキャッシュ・フロー
有形固定資産及び投資有価証券の取得による支出等により、純支出となっております。

POINT 3

財務活動によるキャッシュ・フロー
社債の償還による支出、自己株式の取得による支出等により、純支出となっております。

会社の概要

(平成25年3月31日現在)

商号 キッコーマン株式会社
 設立 大正6年12月7日
 資本金 11,599百万円
 主な事業 持株会社としてのグループ戦略立案及び各事業会社の統括管理
 従業員数(連結) 5,473名
 本店 〒278-8601 千葉県野田市野田250番地
 電話 04-7123-5111

役員

(平成25年6月25日現在)

取締役

取締役名譽会長 茂木友三郎
 取締役会長 堀切功章
 代表取締役社長 齋藤賢一
 代表取締役 根岸康二
 取締役 重山俊彦
 取締役 天野克美
 取締役 山崎孝一
 取締役(社外) 島田政綱
 取締役(社外) 福井俊彦
 取締役(社外) 尾崎護

監査役

常勤監査役 中村隆晴
 常勤監査役 森孝一
 監査役(社外) 井口武雄
 監査役(社外) 高後元彦

執行役員

社長 CEO 堀切功章
 専務執行役員 齋藤賢一
 専務執行役員 根岸康二
 常務執行役員 重山俊彦
 常務執行役員 天野克美
 常務執行役員 山崎孝一
 常務執行役員 島田政綱
 常務執行役員 福井俊彦
 常務執行役員 尾崎護
 執行役員 松崎和文
 執行役員 濱田文孝
 執行役員 三村山直
 執行役員 清松直泰
 執行役員 藤村公苗
 執行役員 小澤若也
 執行役員 般山雄
 執行役員 神石垣隆
 執行役員 片岡茂
 執行役員 白岡一
 執行役員 三宅宏
 執行役員 茂木修
 執行役員 松崎毅

株式の状況

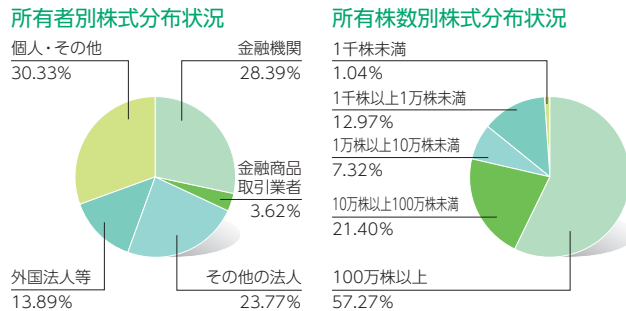
(平成25年3月31日現在)

発行可能株式総数 600,000,000株
 発行済株式の総数 210,383,202株
 (前期末比 増減なし)
 株主数 26,849名
 (前期末比 2,820名減)
 大株主

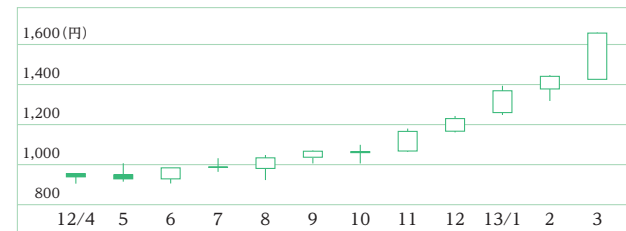
| 株主名 | 持株数 | 持株比率 |
|------------------------|----------|-------|
| 日本マスタートラスト信託銀行(株)信託口 | 11,959千株 | 5.98% |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行(株)信託口 | 9,366 | 4.68 |
| (株) 千秋社 | 6,720 | 3.36 |
| (株) 茂木佐 | 6,140 | 3.07 |
| 明治安田生命保険(相) | 4,959 | 2.48 |
| (有) くしがた | 4,171 | 2.08 |
| 日本生命保険(相) | 3,951 | 1.97 |
| (株)丸仁ホールディングス | 3,884 | 1.94 |
| (公財)野田産業科学研究所 | 3,727 | 1.86 |
| (公財)興風会 | 3,272 | 1.64 |

(注) 1. 当社は、自己株式10,264,411株を保有しておりますが、上記大株主の記載からは除外しております。
 2. 持株比率は発行済株式の総数から自己株式を控除した株数により算出しております。

株式の分布状況 (平成25年3月31日現在)



株価の推移



株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
 期末配当金 3月31日
 受領株主確定日
 中間配当金 9月30日
 受領株主確定日
 定時株主総会 6月開催

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 電話 0120-232-711 (通話料無料)

上場金融商品取引所 東京証券取引所 大阪証券取引所

公告方法 電子公告により行います。
 公告掲載URL
<http://www.kikkoman.co.jp/ir/library/koukoku/index.html>
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

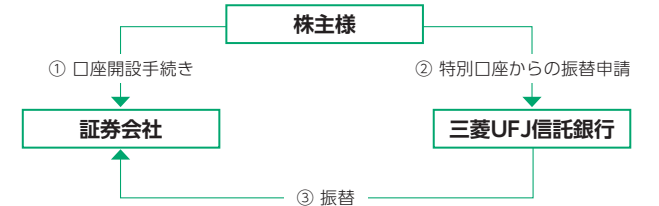
株主優待制度のご案内

当社では、株主の皆様へ当社グループ商品の一層のご理解・ご支援をいただくため、株主優待制度を実施いたしております。

- 対象 毎年3月31日現在の株主名簿に記載された1,000株(1単元)以上ご所有の株主様を対象としております。
- 内容 年1回一律に2,500円相当の当社グループ商品の詰め合わせを贈呈いたします。
- 実施時期 毎年7月末日までに実施いたします。

特別口座から証券会社の口座への振替について

特別口座に記録された株式を市場で売却するためには、株主様が証券会社に開設する振替口座に株式を振り替える必要があります。ご売却を希望される際は、証券会社に口座を開設した後、株主メモ欄に記載の三菱UFJ信託銀行にご連絡いただき、口座振替手続きを行ってください。



※「特別口座」とは、株券電子化前にほぶり(株式会社証券保管振替機構)に株券を預託されなかった株主様(端株を所有されていた方を含む。)のために、株券電子化後に当社が開設した口座です。

IRレポートについて IRとはInvestor Relationsの略であり、株主・投資家の皆様に、当社グループの財務や業績等の情報を公開することです。

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
 アクセスコード 2801

携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。

空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、約2ヶ月間(平成25年8月31日まで)です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を贈呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2media)についての詳細 <http://www.a2media.co.jp> ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
 TEL: 03-5777-3900 (平日10:00~17:30)
 MAIL: info@e-kabunushi.com